



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2017.6

No.399

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



2017年冬 カモ科カウント調査結果

日本野鳥の会埼玉 調査部

今回の調査は2017年1月7日～1月15日の間に、県内59カ所で行われました。この調査でカモ科17種9,600羽が記録されました。総個体数は昨年の1割減でした。これは、個体数の多い渡良瀬遊水地・谷中湖(加須市)と宝蔵寺沼(羽生市)での調査が、天候不良のため行われなかったためと考えられます。

珍しい記録はアメリカヒドリです。新河岸川・川崎橋～田島橋間、行田浄水場の2カ所

でそれぞれ2羽記録されました。加須はなさき公園ではヒドリガモとアメリカヒドリの交雑個体が2羽記録されました(ヒドリガモとしてカウントしました)。

カワウは36カ所で392羽。昨年(946羽)の約4割に減少しました。カワウが大きく減少したのは荒川・荒川鉄橋～戸田橋間(135羽→3羽)、武蔵丘陵森林公園・山田大沼(296羽→6羽)です。

調査地(河川)		コハクテヨウ	オカヨシガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	アメリカヒドリ	マガモ	カルガモ	ハシビロガモ	オナガガモ	トモエガモ	コガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	カワアイサ	カモ不明種	カモ科個体数	カモ科種類数	カワウ	総個の有無
入間川	豊水橋～新富士見橋(狭山市)						22	2				18								42	3	3	○
越辺川	八幡団地前(川島町)	77	3				73	105	64			30	1							353	7	22	
荒川	荒川鉄橋～戸田橋(川口・戸田市)			12				7					1							20	3	3	
	彩湖(南区・戸田市)			1	1		18	11		3		15	126	251		2				429	9	41	△
	南畑排水機場・びん沼川(富士見市)				54		14	68	49	2		65								252	6	8	
	明戸堰・白鳥飛来地(深谷市)												4			28				32	2	5	
	植松橋(深谷市)	48																		48	1	3	○
隅川	隅川排水機場(桜区)						62	5				73								140	3	1	
	浅間橋～堤の内橋(西・桜・大宮区)						48	25				124								197	3	4	
元荒川	今宮橋～八幡橋～清掃局(蓮田・白岡市)							18				24								42	2		
	東北本線鉄橋～県道3号線(蓮田市)				14			36				13								63	3	3	
	城北大橋～水管橋(岩槻区)				10		9	86				130								235	4	1	
	末田堰(岩槻区)											35								35	1		
古利根川	寿橋～堂面橋(越谷市・松伏町)				20			4												24	2	3	
	古利根公園橋～寿塚橋(越谷・春日部市)				25			27				9								61	3	2	
利根川	坂東大橋下流(本庄市)		2				15	10		4		114		3	2	22	6			178	9	13	
新河岸川	川崎橋～田島橋(川越市)		10	1	258	2	37	102				47	8							465	8	1	
	川崎橋～第二新河岸橋(川越市)		11	6	127	152	35	2				15	2							350	8	22	
柳瀬川	富士見橋～栄橋(富士見・志木市)				132			8		2		70								212	4	1	
志川	石橋～松山橋(大宮・見沼区)				21			9				6	1							37	4		
	松山橋～大道橋(大宮・浦和・見沼区)		25	12	38		3	16	5			82								181	7	3	
	合併記念見沼公園の池(大宮区)									1			1							2	2		
	大道橋～新宿橋(緑区)											11								11	1		
	新宿橋～八丁堤(緑区)			2				4	27			35								68	4	2	
	芝川第一調節池(緑区・川口市)		2					4	12				6	60			12			96	6	40	
	青木橋水門～芝川水門(川口市)				64			25				2	30							121	4	3	
如田屋川	七里総合公園～県道214号線(見沼区)						2	1				1								4	3		
	七里総合公園～締切橋(見沼区)							23												23	1		
見沼代用水・東線	締切橋～さぎ山記念公園の池～国昌寺橋(緑区)							8												8	1	1	
	国昌寺橋～国道463号線(緑区)																			0	0		
	国道463号線～山口橋(緑区・川口市)																			0	0		
見沼代用水・西線	県道214号線～山中橋(大宮・浦和区)							15												15	1		
	山中橋～馬場橋(緑区)							9												9	1		
	馬場橋～附島橋(緑区)							11												11	1		
綾瀬川	武蔵野線鉄橋～新栄団地(緑区・越谷・草加市)						24	41	3		35									103	4		
種類別個体数		127	53	20	776	2	487	746	59	76	0	952	150	346	2	52	18	0	0	3866		185	

給餌が行われていたのは6ヵ所で、いずれも来園者や近隣の住民による不定期な給餌でした。荒川・植松橋付近では、コハクチョウの撮影のためにカメラマンによる給餌が行われていました。

昨年と今年の結果を種類ごとに比較してみました。コハクチョウが昨年の4倍以上に増えています。これは今年から新たに荒川・植松橋のコハクチョウ飛来地での調査を始めたためです。ヨシガモは約1.6倍、ハシビロガモは約1.5倍に増加しました。減少が目立ったのはオナガガモ、トモエガモ、カワアイサの3種です。一昨年、昨年と増加傾向が見ら

れたトモエガモは、今年は3羽のみの記録でした。オンドリは、荒川上流部の飛来地の調査が、担当者退会により出来なかったため、記録されませんでした。情報によれば、玉淀湖には例年通りに飛来していたということです。

今回の調査は49名の方にご協力いただきました。厳しい寒さの中での調査、お疲れさまでした。心より御礼申し上げます。お名前は後日、「行事報告」欄に掲載いたします。今後とも、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

(調査部 小林みどり)

調査地(湖沼)	コハク チョウ	オカ ヨシガ モ	ヨシガ モ	ヒドリ ガモ	アメリ カヒド リ	マガ モ	カル ガモ	ハシ ビロガ モ	オナ ガガモ	トモ エガモ	コガ モ	ホシ ハジロ	キン クロハ ジロ	スズガ モ	ホオジ ロガモ	ミコ アイサ	カワ アイサ	カモ不 明種	カモ科 個体数	カモ科 種類数	カワウ	給餌の有 無
秋ヶ瀬公園の池(桜区)						17	3			2								22	3			
狭山湖(狭山市)						60	4			6					1	4		75	5	5		
川越水上公園の池(川越市)			56		2	72				9								139	4			
小群水鳥の郷公園・御伊勢塚公園(川越市)				15	9	20		1	14									59	5	7		
伊佐沼(川越市)				87		2	67			250	5							411	5	74		
武蔵丘陵森林公園・山田大沼(清川町)				8	193	11			1	146	9							368	6	6		
大沼(吉見町)						27	47			14	1	11				4		104	6	3		
八丁湖(吉見町)						96	8			15	4	5						128	5			
大沼公園・大沼(熊谷市)				6				4	4	1								15	4			
県立農林公園・芳沼(熊谷市)		31				175	91		59	35	12	189						572	7	12		
久喜菖蒲公園・昭和沼(久喜市)			17	48		247	157		156	1	58	82						766	8	33		
行田浄水場(行田市)			2	130	2	578	146		44	1	85	67					6	1061	9	5		
白檜沼(南区)						2	1												3	2		
見沼自然公園(緑区)		8		41		29	45	33										156	5	2	○	
大宮公園(大宮区)						6	8				20					1		35	4	10	○	
大宮第三公園(大宮区)										16	2							18	2			
深作遊水池(見沼区)						5	12	1		6								26	4			
そうか公園の池(草加市)			74			13	64	20		16		3						190	6	6	○	
大相模調節池(レイクタウン湖)(越谷市)			7			17												24	2			
大吉調節池(越谷市)			25		16	4	6		6		4							61	6	9		
緑の丘公園の池(松伏町)						60	93		4	337	4	4				4		506	7	2		
吉見町のため池群(8か所の合計)						74	119			143	3							339	4	23		
加須はなさき公園の池(加須市)				60		96				16								172	3		○	
赤堀遊水池(桶川市)			4	50		284	4		2	140								484	6	10		
種類別個体数	0	39	23	607	2	1828	1035	79	343	3	1350	40	365	0	1	9	4	6	5734	207		

2017年種類別総計	127	92	43	1383	4	2315	1781	138	419	3	2302	190	711	2	53	27	4	6	9600	392	
2016年種類別総計	29	115	27	1688	0	2443	2179	94	628	48	1970	253	670	11	48	31	12	325	10579	18	946
増減比(2017/2016)	4.38	0.80	1.59	0.82		0.95	0.82	1.47	0.67	0.06	1.17	0.75	1.06	0.18	1.10	0.87	0.33	0.02	0.91	0.41	

△:給餌はユリカモメ対象。

「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」参加レポート

今年の1月28日から29日にかけて、日本野鳥の会普及室主催「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」が八王子の研修施設にて開催され、全国から各地の探鳥会リーダーが集まりました。そこに埼玉から参加された若手お二人のレポートを紹介します。

高崎 康晃（さいたま市）

初日のプログラムで印象に残ったのは全体で行ったワールドカフェ「探鳥会を考えよう」でした。これは今までの探鳥会を振り返り、どのようにすればより良い探鳥会になるかという内容で討論を行いました。

そこで私が一番感銘を受けたのが探鳥会のIT化でした。現在の探鳥会ではどんな大人数でも地声で案内を行っているため、最前列にいる人の声が列の最後尾まで聞こえないことがあり、メインリーダーの負担が大きく、喉を痛めてしまうことがあります。また、野鳥観察は基本的に望遠鏡を使用するため、一人一人見なければなりません。このため見ている途中で鳥が飛んでしまい、見られる人と見られない人の差が出てきます。

前者の問題に関しては拡声器の使用が適切だと思います。現在ヤング探鳥会ではハンズフリー拡声器を使用しており、これにより大人数にも対応できるようになっています。

後者の問題に関しては現在スマートフォンが普及しており、それを望遠鏡に接続できるアダプターがあり、機器を活用して案内を行えばよいと思いました。

しかし、両案とも投資が必要なため直ぐ実行に移すことは難しいと思います。しかし、



4月26日 秋ヶ瀬探鳥会(奥)と、同時進行したビギナー探鳥会(手前)の鳥合わせ

私はこの案に感化されたため個人的にマイクを購入しました。

また望遠鏡の件も望遠レンズとライブビューモードを使用し、楽しんでもらえるよう努力しようと思います。

2日目に印象的だったのは分科会で行われた「川の上流から下流までを探鳥会でつなごう！多摩川流域合同探鳥会の紹介」でした。この探鳥会は神奈川支部と奥多摩支部の共同で多摩川の上流から下流までの5カ所で探鳥会を行うというもので、準備に1年近くかかったそうです。これはさすがにかかりすぎだと思いましたが、打ち合わせはメールで行っていたため返信が遅い人もおり、送信1週間後に内容を賛同できない方もいたため、なかなか前に進まなかったそうです。

開催をしてみると大盛況で、特に神奈川支部の会員の方たちの中には山の鳥が苦手、また、奥多摩支部では海の鳥が苦手という人もいて、互いに教え合い、良い交流になったそうです。

両支部の反省点として、この探鳥会でも多くの方が参加し声が届かないことが多々あったそうで、拡声器が必要だということが挙げられていました。さらに、返信等が遅いと内容が進まないため返信の早い人を担当にすべきだということも挙げられていました。

特に印象に残ったフレーズに「自分の支部だけで満足してしまっただけではマンネリ化は避けられない」の説明がありました。他支部との交流は新しい風を吹き込み、会を活性化させると思います。現在当会では東京や栃木と合同でヤング探鳥会を開催しているため共通している部分もあり、私も「確かにそうだ」と思う点がありました。これからは様々な探鳥会に足を伸ばし、見聞を広げていきたいと思っています。

島崎 敦 (入間市)

【内容】

初日はまず、「探鳥会を考えよう」というテーマで他の参加者との話し合いを行い、より多くの人に来てもらうために、探鳥会はどうあるべきかについて考えた。その後「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」と題した分科会に参加し、探鳥会で野鳥の行動記録を行う取り組みについての講演を聞いた。

翌日は有明海沿岸がラムサール条約登録湿地になった経緯と現況についての講演「有明海の現状とラムサール条約」を聞いた後、本フォーラムの振り返りとその内容を踏まえてどう行動できるかを他の参加者と話し合った。

【所感】

2日目の内容は純粋な保全の講演及びフォーラムの振り返りだったので、主に1日目の内容について感じたことと、それをどのように今後の活動に活かしたいか述べる。

ワールドカフェ「探鳥会を考えよう」の“多くの人に参加してもらおう探鳥会はどうあるべきか?”という議題について、門戸を広げるためにはYoung探鳥会のような特定の層に向けた探鳥会よりも、誰でも参加可能な探鳥会を多く行っていくべきだと考えていた。

しかし、先輩方の意見を聞くなかで、

- ①誰でも参加可能な探鳥会を今までやってきた結果、会員数が漸減していること、
 - ②特定の層向けの探鳥会には新規参加者が多いこと等の理由で特定の層向けの探鳥会がいま求められているもの、
- ということがよく分かった。

このことから自分がリーダーをしていくYoung探鳥会の意義の1つとして新規参加者を獲得することがあるということが再認識できた。今後Young探鳥会でリーダーをする際は、新規参加者を把握しておき、リピーターとなってもらえるようフォローをしていきたいと考えた。

また、参加者層以外の点では、一般によく知られた公園で行う探

鳥会には他の探鳥地で行う場合よりも多くの参加者が集まるという意見が興味深かった。多くの参加者が集まる要因としては、探鳥会以外の目的でその場所を訪れ、ついでに探鳥会に参加する人がいること、一般的な探鳥地よりも交通の便が良いことが挙げられるのではないかと考えた。Young探鳥会の開催場所の意思決定に関わる機会もあると思うので、その際は判断材料の1つにしていきたい。

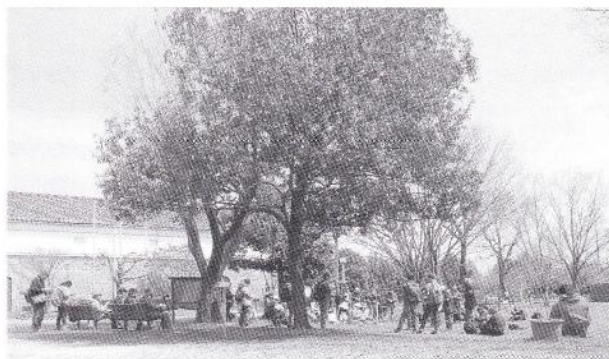
「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」では、神奈川県で行われている、探鳥会等で野鳥の行動を記録し、そのデータを集積する取り組みが紹介された。講演やその後の議論の中で、出現種だけではなく野鳥の行動に着目することで探鳥会をより面白いものにできるという主張がされており、リーダーを行っていく上で参考になる意見だった。

ただし、今までの経験から、経験が浅い方が野鳥観察に興味を持つ際、

- ①まず、未知の野鳥、普段見かけない野鳥を観察することを楽しむ、
- ②次に、ある程度多くの鳥種及びその生態について知ること、行動を観察することが楽しくなる、

というような順番があるように思う。

Young探鳥会では、①の段階の参加者が多いように思われる上に、探鳥地が毎回異なるので、行動よりもより多くの種を見ることに主眼を置く方針が良いと考えた。一方で定例探鳥会など、ベテランが多く、頻度が高いためワンパターン化の恐れがある探鳥会では、野鳥の行動に着目した案内をしていくのもひとつの選択肢だと考えた。



4月2日 民家園周辺定例探鳥会(写真は2枚とも編集部)



野鳥情報

春日部市大場 ◇12月28日午後3時45分、県道80号線(野田岩槻線)沿いの農家屋敷林からミヤマガラス約100羽の群れが飛び立ち、鳥柱を作り旋回しつつ、住宅地上空を通過し、3分後には南東へ遠去かった。方向的には越谷市内の久伊豆神社。ここを峠とする群れかもしれない。ミヤマガラスは以前は開けた農耕地で見かけられたが、最近では市街地にも飛来するようになった。珍しい鳥ではなくなり、冬鳥の常連さんである(石川敏男)。

さいたま市中央区八王子5丁目 ◇12月31日、かやのき団地8号棟庭のイチョウでアトリ5羽、小声で「キョキョ」と鳴く。下の草地でスズメ10羽が採餌。他にアオジ、メジロなど(大塚純子)。

渡良瀬遊水地 ◇12月31日、カオジロガビチョウ4羽(下写真)が落ち葉を掻き分け



ていた。他にエナガ、シジュウカラ、ジョウビタキ、ツグミ、モズなど。1月7日、カオジロガビチョウ4羽、1月10日、カオジロガビチョウ、ドングリをくわえていた。1月26日、カオジロガビチョウ6羽(長嶋宏之)。◇1月22日。渡良瀬遊水地を右手に見て進み、北エントランス手前、左手にある池でコハクチョウ、車で走行中だったため、正確な数はわからないが、最低でも3羽。内1羽は幼鳥だった(荒川貴之)。

横瀬町埼玉県民の森 ◇1月1日、キジ、ダイサギ、ノスリ、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、キクイタダキ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、ゴジュウカラ、ウ

グイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、キセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、マヒワ、オオマシコ、ウソ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジなど。オマケにニホンザル(大畑祐二)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月2日、ヤマガラ10羽±、カシラダカ1羽、シメ4羽、ベニマシコ♂1羽、♀2羽。他にカワセミ、シロハラ、ツグミ、イカルチドリなど(長嶋宏之)。◇1月11日、ヤマガラ、あちこちにいる。カワセミ♀、シロハラ(姿3回見る、声あちこち)、シメ2羽、エナガ5~6羽、アオジ、ウグイス、イカルチドリなど。1月21日午前中、ヤマガラ、ルリビタキ♀、アカゲラ、カワセミ、シロハラ、カケス、アオジなど(本多己秀・久文字)。

蓮田市馬込トラスト7号地 ◇1月2日午前11時30分頃、アトリ3羽、シロハラ2羽、コジュケイ5羽、ウグイス、メジロ、オナガ、カシラダカ、モズ、ルリビタキ♀、ガビチョウなど(本多己秀・久文字)。◇1月13日午前中、アトリ10羽、シロハラ、カケス2羽、ツグミ、ヒヨドリ、コジュケイ8羽~10羽(本多己秀)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇12月27日、ヒヨドリ数羽がキャベツの葉を食べていた。12月30日、ハシトガラスが3羽、ユズの実を食べていた。ヒヨドリがミカンの実を群れて食べていた。ヒヨドリがセンリョウの赤い実を食べ始めた。1月3日、シロハラ1羽、カケス2羽、ツグミ1羽、カワセミ1羽。1月11日、アカゲラ1羽、シロハラ1羽、エナガ3羽、ハクセキレイ3羽。1月17日、ツグミ2羽、シメ1羽、ジョウビタキ1羽、カイツブリ1羽、コサギ1羽。1月20日、シロハラ1羽、ツグミ5羽、カケス1羽、カイツブリ1羽、カルガモ3羽。1月27日、カケス2羽、ジョウビタキ♀2羽、カワセミ2羽。2月5日、カケス2羽、屋敷林を飛び回る。ウグイスが竹藪で地鳴き。エナガ2羽+、メジロ5羽、コゲラ1羽+、シジュウカラ数羽の混群が農家の庭先から樅の木に移動(長嶋宏之)。

さいたま市中央区与野公園 ◇1月7日、アトリ約150羽、一群となって園内を移動。

樹上で休み、地上で採餌。他にキジバト10羽＋、ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロなど。弁天池でカルガモ17羽（大塚純子）。

さいたま市見沼区深作遊水池 ◇1月8日、深作川沿いでアオジ多い。クイナ1羽、珍しく開けた所に出てきた（藤原寛治）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇1月9日午前8時35分頃、1本早いバスに乗れたので南口前でゆっくりしているとハクセキレイが近くにやって来た。何気なくスコープで見ると、なんと亜種ホオジロハクセキレイ、過眼線がなく、顔は白さが際立つ個体でした（大畑祐二）。

さいたま市見沼区上山口新田（5339-6572）
◇1月10日正午前後、芝川でヒクイナ1羽、クイナ1羽、他に、カワセミ、コサギ、アオサギ、コガモ、カルガモ、ヨシガモ、ハシビロガモ、バン、オオバン、モズ、キジバト、ハクセキレイ、セグロカモメ、カイツブリ、メジロ、アオジ、ホオジロなど（森本國夫）。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇1月11日午前8時50分、水路の浅羽野橋30mほど下流右岸で、低木や藪から流れの中の玉石に降り、水を飲むアトリ6羽。冬鳥のシメ、ツグミの姿も多い。9時55分頃、高麗川上空でトビにカラス1羽がモビング。ネムノキ広場より暫し空中戦を見る（増尾隆）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇1月15日、アトリ50羽土が地面で採餌。時々樹上に舞い上がった。ミヤマガラス100羽土の中にコクマルガラス淡色型10羽＋が電線にとまっていた。アオサギの側に亜種ダイサギがいて大きさの比較ができた。他にカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キンクロハジロ、ヨシガモ、ホシハジロ、ヒドリガモなど（長嶋宏之）。

北本自然観察公園 ◇1月15日、コジュケイ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、クイナ、ノスリ、カワセミ、アリスイ、コゲラ、アカゲラ、アオ

ゲラ、ハヤブサ、モズ、カケス、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、ガビチョウ、ソウシチョウなど。今日は結構よかった（大畑祐二）。

熊谷市(旧 大里町)屈戸 ◇1月16日午後12時20分頃、ハイタカが飛んでいた。久下橋の辺りの上空で猛禽が飛んでいるのはよく見られるが、ハイタカは稀だ（大畑祐二）。

幸手市中川河川敷(5439-0691) ◇1月23日、毎月1回定期的に行っている中川鳥類調査において水門前のヨシ原でトラフズクを1羽観察する（荒川貴之）。

さいたま市南区白幡沼 ◇1月24日、コハクチョウ1羽。昨日から沼にいと聞いた。久しぶりの記録（海老原教子）。

東松山市の九十九川 ◇1月26日、イソヒヨドリ早と思われる個体1羽。イソヒヨドリは深谷市でも見られるが、ここでも見られた（中村 弘）。

鴻巣市栄町 ◇2月1日、JR鴻巣駅すぐそばの線路脇の人家の衛星放送アンテナにイソヒヨドリが1羽、飛んで来てとまる。きれいなみだった（榎本秀和）。

さいたま市西区～桜区の鴨川 ◇2月4日、根切橋付近でハイタカ♀1羽、ノスリ1羽、コガモ、イカルチドリ、イソシギ、ハクセキレイ、アカハラ、ハシブトガラスなど。関沼付近でマガモ8羽＋、オオバン12羽。危険を悟った河畔のマガモが川へ降りた直後にオオタカ成鳥1羽が飛来したが、カラスに追われて学校橋袂の木立の中へ。その後もハシボソガラス4～5羽が周囲で見張り、オオタカが移動の度に追尾。他にカイツブリ、カワセミ、モズ6羽＋、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジなど（大塚純子）。

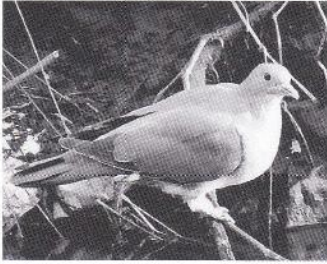
表紙の写真

スズメ目ツバメ科ツバメ属ツバメ

巣立ち間もない幼鳥が、上空を飛ぶ親を呼んでいた。
徳名貴房(さいたま市)



行事案内



アオバト(プリングマン・ウィリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月3日(土)

集合：午前8時、東武越生線 川角駅前。

交通：東武東上線 川越 7:16(準急)→坂戸で越生線乗り換え 7:39 発。または寄居 6:44 →小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線 大宮 6:37→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、志村、鈴木(秀)、高草木、藤掛、藤澤、持丸

見どころ：ホトトギスの声が聞こえる6月の高麗川です。城山橋上流の遊歩道工事は今年3月末に完成し、川沿いの遊歩道が一層長くなりました。環境変化に伴い、野鳥たちの生息に何か変化が起きているのでしょうか。お弁当持参で昼食時の交流も楽しみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、大畑、岡安、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：葉が茂り、鳥がなかなか見られない季節です。でも、ここ石戸宿は声でも十

分に楽しめます。昨年は、サンコウチョウ、キビタキなど声を中心に21種を確認。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：6月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。担当：手塚、伊藤、大井、須崎、高崎、野口(修)、藤田、若林

見どころ：新緑の調節池を廻り、夏を過ごす鳥たちの様子をそっと観察します。今年はカッコウに会えるでしょうか。

注意：途中トイレがありません。天候によってはコースを変更します。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：オオヨシキリが減って、したがってカッコウが減って……。頼みはホトトギスです。毎年鳴いていてくれます。皆で姿を探しましょう。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：6月15日(木) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス 手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)で東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:04 発、南羽生駅 8:21 発、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木

見どころ：水辺ではアオサギ、芝生広場ではヒバリが子育て中、今年もコチドリやコアジサシが来てくれると嬉しいですね。

注意：帰りのバスは14:50発。バス時刻表が変わっていますので注意してください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、島山、増田

見どころ：ホオジロ、ツバメ、ヒバリ、カラヒワそれにスズメ。身近な小鳥をじっくり観察しましょう。新しい発見があるかも。

日本野鳥の会埼玉 総会のご案内

日時：6月25日(日)

午前9時30分 受付開始

午前10時00分～10時30分 記念講演

午前10時30分～11時45分 総会

会場：埼玉会館(さいたま市浦和区高砂3-1-4)2階ラウンジ(教室型100名会議室)

交通：JR京浜東北線浦和駅西口から県庁通りを西へ徒歩6分、右側。県庁通り沿いの車寄せにある入り口からお入りください。

記念講演：公益財団法人日本野鳥の会常務理事遠藤孝一氏「日本野鳥の会の活動について」

総会議題：平成28年度事業報告と決算報告、平成29年度事業計画案と予算案、平成29

年度役員選出。

参加資格：会員であればどなたでも。

時間も場所も、例年とは異なりますので、ご注意ください。前年度の活動を振り返り、新年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。



日本野鳥の会神奈川支部からのご案内です。

今年の初夏も神奈川支部恒例の「潮溜まりウォッチング」を開催します。

6月の日曜日に2回企画しましたが、いずれも支部の枠を超えて参加していただきたく、遅めの集合時刻とし、一般探鳥会同様、自由参加のかたちになりました。

申し込みは必要ありませんが、お問い合わせに対しては詳細なご案内を用意して返信させていただきます。2回ともまったく同じ内容ですので、記事は日程を並べて、内容はひとつにしました。

潮溜まりウォッチング 横須賀市長井・新宿

期日：6月11日(日)と6月25日(日)

集合：午前10時、京急・三崎口駅改札前。

現地まで20分ほどバス移動します。

交通：京急各駅の券売機で三浦半島1DAYきっぷをお求めください。全区間のバスがフリーになり、降車時の提示だけで済みます。

解散：14時ころ、現地にて。

見どころ：大きく潮が引いた磯に出て、海の宝石と言われるウミウシ(右下)を中心に探索します。魚はもちろん、多種のカニ、ナマコなど。タコにも触れます。磯に棲む多くの生きものの魅力にきっと夢中になることでしょう。



問い合わせ：一般探鳥会同様、非申込制の自由参加。潮溜まり観察会が初めての方は、

案内を返信いたします。

担当：日本野鳥の会神奈川支部<<林庭()、黒田、上玉利>>

ご注意：雨天中止、弁当要です。



行事報告

12月23日(金、祝) 年末講演会

参加: 58名 場所: 浦和コミュニティセンター

第1部「映像で振り返るこの1年」では4名の会員から寄せられた画像等を鑑賞した。第2部ではNPO法人オオタカ保護基金代表・日本オオタカネットワーク代表の遠藤孝一氏をお招きして、『オオタカの生態と保全～希少種解除はあるのか?』のテーマで講演していただいた。栃木県那須野ヶ原で長年行われてきた調査をもとに、個体群の動態、行動圏や環境利用などオオタカの生態についてお話をしていただき、さらに、最近の話題である種の保存法の希少種解除の課題についても触れていただいた。我々野鳥の会の会員として何ができるのかを再考するよい機会になった。第3部の希望者による懇親会はワシントンホテル内の中華料理店で行い、講師の遠藤氏を含めて28名が出席した。

(長野誠治)

12月25日(日) 幸手市 宇和田公園

参加: 53名 天気: 晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト シラコバト カワウ アオサギ バン イソシギ トビ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (33種) (番外: ドバト) 開始早々、シラコバトが電線に。ちょっと遠かったが案内を中断して、まずは全員で観察。スタート後は、公園内と中川の土手でゆっくりと身近な鳥たちを楽しんだ。クリスマスにもかかわらず、今年も50名を越える方に参加いただき、ありがとうございました。

(佐野和宏)

1月4日(水) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 57名 天気: 晴

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ ア

オサギ バン オオバン タゲリ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (39種) (番外: ドバト) 新年の挨拶を交わして歩き始めた。鳥インフルエンザに対する念のための用心として、見沼自然公園水辺のカモの糞を踏まないように、一部コースを変更した。ここ3年間出ていなかったタゲリがふわふわと飛び、ノスリとハシブトガラスのバトルを全員がゆっくりと観察した。探鳥会解散後の野外懇親会では、オカリナ演奏もあり、穏やかな交歓を楽しんだ。

(海老原美夫)

1月7日(土) 戸田市 彩湖

参加: 41名 天気: 晴

マガモ カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ オオバン ユリカモメ セグロカモメ ノスリ アリスイ コゲラ ハヤブサ モズ カケス オナガ ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (42種) (番外: ドバト) 年が改まり、新鮮な気分です。探鳥会を始める。風もなく穏やかなので、管理橋を渡るのも辛くない。ここの定番の水鳥もさることながら、今回特筆すべきはアリスイ。葉を落とした木の高いところにとまってくれた。ベニマシコもよく現れた。イソヒヨドリを見られた方もいた。新年の青空を、ノスリとハヤブサが悠々と帆翔。

(小林みどり)

1月7日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 27名 天気: 快晴

ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ホオジロガモ ビロードキンクロ ウミアイサ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ オオバン ダイゼン ハジロコチドリ シロチドリ トウネン ミユビシギ ハマシギ ユリカモ

メ カモメ セグロカモメ ミサゴ モズ ハシ
 ボソガラス ハシブトガラス ヒヨドリ メジロ
 ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハク
 セキレイ タヒバリ アオジ オオジュリン (34
 種) (番外: ドバト) 風もなく穏やかな探鳥日和。
 海岸に出るとびっくり、開始前にいたミヤコドリ
 たちの姿はなく、干潟はオオバンだらけ。遠くの
 杭にとまる数少ないシギ、チドリを観察する。東
 の堤防で、比較的近くの3羽のハマシギ、トウネ
 ン、シロチドリに混じるハジロコチドリが見られ
 た。堤防上にもミヤコドリの姿はなくながっかりし
 ていると、ピロードキンクロを見つけた。起きて
 いる彼を見られたのは大収穫。(菱沼一充)

1月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 30名 天気: 曇

コジュケイ キジバト カワウ ダイサギ カワ
 セミ コゲラ アオゲラ ハヤブサ モズ カケ
 ス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウ
 カラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ム
 クドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズ
 メ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ シ
 メ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (30
 種) 上手に上がると早速ハヤブサが飛んできて
 鉄塔にとまり、距離はあったがじっくり見ること
 ができた。エノキの木でシメの群れが採餌中、イ
 カルも混ざっていた。ジョウビタキ♀、アオジが
 現れ、アオゲラが飛んで木にとまり全員が見るこ
 とができた。河原ではダイサギ、カワウ、野鳥の
 森でカケス、池にはカシラダカ、アトリ、メジロ
 が水飲み、カワセミが出て終了した。(千島康幸)

1月9日(月、祝) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 16名 天気: 雨後曇後晴

コジュケイ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガ
 モ マガモ カルガモ トモエガモ コガモ ホ
 シハジロ カイツブリ キジバト アオバト カ
 ワウ アオサギ ダイサギ オオバン イカルチ
 ドリ コゲラ アカゲラ カケス ハシブトガラ
 ス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイ
 ス エナガ メジロ トラツグミ シロハラ ツ
 グミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセ
 キレイ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ シ
 メ イカル ホオジロ アオジ (41種) (番外: ガ
 ビチョウ) 前日の雨が残り開催が危ぶまれた朝、

昼頃に日差しは回復。探鳥会開始直後、左にコジ
 ュケイ、右にトラツグミ、道の先にはキセキレイ、
 シロハラ、ルリビタキと中々先に進めない。猛禽
 こそ出現しなかったものの、多くのシロハラ、カ
 ケスをはじめ小鳥の声と姿が絶え間なく、少し歩
 いた広場ではイカルチドリ、林の中ではアオバト
 が18羽も現れ、これまでとは違った探鳥会となっ
 た。(鈴木秀治)

1月9日(月、祝) 春日部市 内牧公園

参加: 17名 天気: 小雨

キジバト カワウ アオサギ カワセミ コゲラ
 アカゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラ
 ス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ
 ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ
 ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ
 キレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ シメ
 (26種) (番外: ドバト) 小雨模様の中、木々の
 多い場所を巡り、いつもより短い探鳥コースとな
 った。シロハラの姿が多く見られ、また50羽ほど
 のアトリの群れが吹き寄せられた落ち葉の上で懸命
 に採食していた。悪天候でも頑張ったお蔭で冬
 の鳥を楽しむことができたと思う。(石川敏男)

1月9日(月、祝) さいたま市 民家園周辺

雨のため中止。(伊藤芳晴)

1月9日(月、祝) さいたま市 民家園周辺 Beginner

雨のため中止。(石塚敬二郎)

1月14日(土) 深谷市 仙元山公園

参加: 19名 天気: 晴後曇

カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ
 ダイサギ コサギ トビ オオタカ カワセミ
 コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブ
 トガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メ
 ジロ ムクドリ トラツグミ シロハラ ツグミ
 ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセキレイ
 ハクセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ
 シメ カシラダカ (33種) (番外: ドバト) 朝の
 うちは風もなく好天。滝宮神社でアトリの群れ、
 唐沢川でカワセミ、コサギ、ジョウビタキ、オオ
 タカなどを見る。仙元山では、カケス、ビンズイ、
 ルリビタキに続いて、期待のトラツグミが現れ、
 全員で見られて大成功。(新井 巖)



● 表紙の写真いつも募集中

選択のポイントは何といても「季節感」！ 編集会議は毎月第 1 土曜日の午後ですが、その数日前から、それぞれのページ担当者は写真や原稿の選択、編集作業を開始します。当然ながら、そこで作るのは翌月号です。したがって、例えば 6 月に撮影した写真を 6 月中にお送りいただいても、7 月初めの編集会議で編集する 8 月号の表紙写真への応募となり、2 ヶ月分季節感がずれてしまいます。

ですから、思い切って 1 年間待ち、翌年のその月号のための編集会議に合わせてお送りいただくのも、ひとつの方法です。

長年撮りためた写真がある方は、時季を見てお送りください。

プリントの場合は 2 L サイズ以上で事務局へ。メールの場合は下記編集部への原稿送り先 yamabezuku@hotmail.com へ 1 MB 程度で。表紙写真への応募であることを明記し、20 字 2～3 行程度のコメントを添えてお送りください。お待ちしております。

採否は編集部にお任せください。表紙写真ではなく、カット写真に使わせていただく場合もあります。あらかじめご了承ください。

● 見沼・さぎ山交流広場で P R

3 月 18 日(土)に開催した見沼自然公園ビギナー探鳥会は、「見沼・さぎ山交流広場の春シーズン企画」として交流広場のホームページに掲載し、見沼たんぼ各所にある掲示板にポスターを掲示しました。参加者 40 名の半数が、それらを見て参加した

ものと思われます。公園のカモなどを観察した後、さぎ山記念館の集会室で、詳しい解説をしました。

● 会員数は

5 月 1 日現在 1,709 人。

活動と予定

● 3～4 月の活動

3 月 23 日(木) さいたま市県教育会館で開催された平成 28 年度第 2 回カワウ対策協議会に出席 (小荷田行男)。

4 月 8 日(土) 5 月号校正 (海老原教子、海老原美夫、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司)。

4 月 16 日(日) 役員会 (司会:長野誠治、各部の報告・総会準備・その他)。

4 月 17 日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』5 月号を郵便局から発送 (事務局)。

● 6 月の予定

6 月 3 日(土) 編集部会。普及部会。

6 月 10 日(土) 7 月号校正(午後 4 時から)。

6 月 17 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

6 月 18 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

前号「じいさんのパソコン苦労話」に対し、「長年蓄積した大切な野鳥関連データのバックアップのため、早速外付けハードディスクを用意しました」、一方では「野鳥とまったく関係のない話を特集にするとは、大変がっかりした」など、賛否それぞれのご意見を事務局にいただきました。ありがとうございます。(海)

しらこぼと 2017 年 6 月号(第 399 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社